

## 新刊ニュース

**\*Gregoriana:** 12 chant-based organ pieces by contemporary women composers

Compiled and edited by Anna Lapwood (Stainer & Bell)

現代の女性作曲家による、グレゴリオ聖歌に基づく12のオルガン曲集です。編纂者も女性です。12人全員が存命中の作曲家で1990年代生まれの若い作曲家も多く、現代女性によって新たな息吹を得たグレゴリオ聖歌の精神をここに見ることができます。編集者は述べています。これは大海のなかの一滴にすぎないかもしれない。しかしグレゴリオ聖歌という時空を超えた価値ある音楽に再び近づき、優れた楽器（オルガン）に耳を傾けるのと同じように、作曲家も演奏家も古い起源をもつこれらの聖歌に鼓舞されて欲しい、と。この楽譜集はコロナ・パンデミックの厳しい状況のなかで編集が進められました。全人類が困難に直面していた時にもこのような楽譜集が生み出されていたということに励まされます。

**\*カンティーガス・デ・サンタ・マリアへの誘い—聖母マリア頌歌集—**

浅香武和編著 浅野ひとみ、杉本ゆり、上尾信也 論創社

13世紀にスペインのレオン・カスティリア王アルフォンソ10世によって編纂された聖母マリア頌歌集の日本語による初の文献です。ガリシア語による400曲以上にのぼるマリア讃歌は美しい旋律の宝庫として中世音楽関係者に愛されています。この写本はありがたいことにすべてテキストと楽譜（角型記譜法）が残っております。スペイン国王が初めて日本を訪問をされたときに、表敬のしるしとしてこの写本のレプリカを政府に献上されました。それは今上智大学のヨーロッパ研究所図書館に所蔵されていますので閲覧は可能です。執筆者に私自身も名前を連ねておりますが、私は典礼との関連、民衆信心およびフラシスコ会との関連で論述しました。上尾氏は楽器について論じておられます。

**\*ヨーロッパ中世の自由学芸と教育**

岩村清太 知泉書館

中世のリベラルアーツ（7自由学芸）のなかに算術、幾何学、天文学と並んで音楽があるのはご存知の方も多いと思います。グレゴリオ聖歌を勉強される方はカッシオドルスやラバヌス・マウルスなどの音楽の定義を知っておかれるとよいと思います。

（杉本ゆり 記）